東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2007 年 11 月 30 日

ハッジ（巡礼）における宗教的象徴

親愛なるムスリムの皆様。人間を、動物の目で見ることはできません。もしそのように見るとすれば、人間とは何でしょうか。肉と骨、ズボンとシャツからできているものとなってしまいます。同様に、カーバを「四角い石」「黒い石」と見ることはできないのです。

シンボルであるものが象徴している価値が見逃されると、そこには何が残るでしょうか。もし、それが象徴するものを見ないのであれば、旗は一枚の布に過ぎないし、国土もちょっと大きい不動産に過ぎません。

そして宗教的象徴は、他の象徴よりも何倍も尊く気高いものなのです。預言者ムハンマドは、「ウフドは一つの山である。しかし我々はそれを愛するし、それも我々を愛するのだ。」とおっしゃられました。もしあなたがそれを、石と土、と見なすなら、それもあなたを肉と骨と見なすでしょう。その場合、ウフド山の価値は理解されないです。

ハッジやそれを形成する象徴的な動作について、クルアーンでは「シェアーイルッラー」という表現が用いられています。その意味は「アッラーの象徴」です。クルアーンはこの表現を、他の崇拝行為のためには用いていません。

預言者ムハンマドの言葉においても、ハッジについて用いられる言葉は、他の崇拝行為に関する言葉とは異なるものとなっています。例えば、ハッジにおける崇拝行為の全ての要素について、「メナーシク」という表現が用いられます。また他の崇拝行為について「承認される」の意味で「マクブール」という言葉が使われますが、ハッジの場合は「メブルール」という言葉が用いられます。

これらが示しているように、ハッジを他の崇拝行為から区別する根本的な特質があるのです。それは、象徴的であるという側面がより顕著であることです。ハッジは、シンボルによって満たされた、崇拝行為の偉大な集大成のようなものです。財産、肉体、個人、社会といった次元を包括した、最も包括的な崇拝行為なのです。象徴という次元において、ハッジはちょうど月を示す指のようです。もし指が示している場所を見ず、その指を見ているなら、当然、カーバは「石でできたもの」カーバの黒い石は「石」、アラファトは「砂漠の中の丘」、ザムザムの水は H_2O としか見なされないでしょう。

真実はこのようなものでしょうか？人類の最初の祈りの場であるカーバは、地上がその胸を人の生のために広げた最初の場所でもあるのです。人間は地上に生きている限り、この場所に恩があり、感謝する必要があります。当然、この感謝は本当にその場所に対して行なわれるのではなく、神に対して行なわれます。

カーバの黒い石は、材質としては確かにただの石です。しかしそれが象徴する意味は石よりもずっとはるかに尊いものです。その象徴的意味は、預言者ムハンマドの言葉によるなら次のように表現されています。「黒い石は、アッラーの右手である。」この言葉が比喩であることを理解するためには言語の天才である必要はありません。右手という言葉は、アラビア語で「契約」の媒介を意味します。従って黒い意志に手を触れることは、アッラーに誓いをたてることなのです。

人々はこの石が、イブラーヒームさまの建設された最初のものから残る唯一のものであるからこそ、それに口付けするのです。タワーフ（カーバの周囲を周回すること）が象徴するものはさらに雄大です。タワーフは、微粒子から星にいたる諸世界のズィクルに、人間として参加することです。ちょうど全ての原子核の周囲で回り続けている電子のように、また毎秒、体中をめぐる血液のように、何百万年もの間、地球の周囲を周回してきた月、太陽の周囲を周回してきた地球のように。当然、ザムザムも、水ではありません。ザムザムの泉が示唆していることは明らかです。「もしあなたがイスマーイールを持つハージェルであったなら、力が尽きた時点でアッラーの助けが始まるのです。」というメッセージです。「砂漠であろうと、水のわかないところはありません。イスマーイールのような、それを掘る者がいる限り。」預言者を訪問する巡礼者たちのハッジが、承認されるものとなりますように。アッラーがすべての信者にそれを実現させてくださいますように。